

1 9 9 5 1 0 8

ほほえみ

第 2 号

私の隣で生後 10 ヶ月になる娘が遊んでいます。目を合わせると笑います。なんとかわいい笑顔でしょうか。赤ん坊は泣きながら生まれてきますが、1 週間ぐらいすると笑顔が出るといいます。たまに見せる赤ん坊の笑顔に家中大騒ぎ、みんなで必死になって笑わそうとします。汚れを知らないその笑いは、お姉ちゃんの病気を忘れさせ、元気を与えてくれます。そして、勇気を与えてくれます。人間は笑う動物です。笑いが体の“毒素”を洗い流してくれるようです。笑いが事態を解決してくれるとはいいいませんが、元気と勇気を与えてくれるのは確かです。

< 第 4 回 ほほえみの会 >

今回は最近入院された 2 人を含むおよそ 20 人が参加しました。また新会員は新たに 7 人が加わり、24 人となりました。会には服部先生、坂下先生、岡村婦長さん、そして指導相談の紅林さんも出席してくださいました。

先月話題となった患者兄弟の遊び場の件ですが、とりあえずほほえみの会開催時は、向かいの部屋を貸してもらえることになりました。小さい子供用のおもちゃもあるそうです。会に子供を連れてきたときには、お互いに交代で子供の面倒を見て遊ばせてあげたいと思います。

「のぞみの会」静岡支部の十亀さんから、来月のぞみの会静岡支部会を開催するが、ほほえみの会と合同で開催させてもらえないだろうかという申し出があり、みなさんの了承を得ました。

「のぞみの会」は全国組織の我々と同様の親の会です。来月の第 2 日曜日、12 日の午前 11 時から午後 2 時までです。

当日は、聖路加国際病院のソーシャルワーカー、西田知佳子さんの講演もあります。（詳細は別紙の通りです）

今回は最近入院されたばかりの2人の方も出席されていましたが、ショックを隠しきれない様子でした。

誰もが経験する事です。突然、重い病気を知らされた衝撃は入院してもしばらく続きます。

子供の病気、生命、将来に対する不安。原因は不明とはいふものの自分に責任はなかったのか。この病院で最高の治療を受けられるのか... 悩みはつきません。

神様はその人が耐えられないほどの試練は与えないといひます。この試練は必ず乗り越えられます。そう信じて一緒に頑張りましょう。大変なのは1人ではありません。

また治療中、治療後の学校での問題も話題に出ました。

髪の毛が薄くて目立ち、いじめられることもあるようです。

しかし、学校も気を使って応援体制を作ってくれ面倒を見てくれます。いじめられた子も親の心配をよそに、だんだん強たくましくなっています。

進級問題も校長先生の気持ち一つのようなのです。

思春期の子供は特に悩みも多いようです。

岡村婦長さんによると、悩みを外に出せない子は夜、看護婦さんが話し相手になるよう心掛けてくれているということでした。

坂下先生、服部先生から、「末梢血幹細胞移植」についてお話ししていただきました。

次回 ほほえみの会 は

11月12日（日）11時から14時

こども病院3階会議室で「のぞみの会」、
静岡支部会と合同で行います。

創刊号で鈴木婦長とあるのはA2山本婦長の誤りでした。

訂正してお詫びいたします。

ほほえみの会 代表 池田恵一